

先輩

平成19年入省(行政)

初等中等教育局幼児教育課
係長

向陽平

Mukai Yohei

後輩

平成28年入省(行政)

初等中等教育局幼児教育課
係員

二見 英里

Futami Eri

Q 現在の業務について教えてください。

向：私立の幼稚園や認定こども園の施設整備や、幼稚園の保育料などにかかる保護者負担の軽減を図る補助事業を担当しています。係で担当している事業も含めると、500億円を超える予算を管理しています。

二見：私は、幼稚園の施設整備にかかる補助金の審査の際に、園舎の設計図や見積書などを確認するのですが、初めて見るものばかりで最初は分からないことも多かったんです。また、都道府県の担当者の方からの問合せも多く寄せられるのでその対応もしています。常に電話が鳴りやまないですが、補助金を担当している係ならではの大事な仕事ですね。

Q お互いの業務の様子は？

二見：向さんはいつもテキパキ業務をされていて、私はぼーっと見るだけのような(笑)。

向：そんなことないですよ(笑)。僕からはいつも「こんな依頼があったんだけど、資料作ってもらっていい?」って仕事をお願いしています。二見さんはフットワークが軽く、作業も早いのでとても助かっています。

二見：私自身、何かを作ったりすることが元々好きなこともあって、割と資料を作るのは嫌いじゃないんです。

向：僕自身は、細かい作業が苦手なんですよ。その代わりに、二見さんが作成してくれた資料を上司や外部の人に説明することに全力を注いでいます。

二見：そこでバランスがとれてるのかもしれないですね。特にExcelを使うことが多く、データ抽出して、あれこれ資料を作りたいな作業を、言われたらサッと行っています(笑)。

Q 先輩から学んだことは？

二見：資料を少し見ただけで理解して、的確に指摘して下さる場所。本当にすごいなって思います。私もそれだけの理解力や経験値を身につけたいなって思いました。他にも、係の業務に関わる作業依頼のメー

ルが毎日来るので、基本的には係員の私に対応するんですが、時々、向さんがさっと片付けて下さって。向さんは意図せずそれを普通にやってく下さるんですが、やって下さった分、自分も何か別の形で上司を支えたいっていう気持ちにすごいなります。向さんは、そういう感じに自然と思わせてくれる良い上司です。

向：すごい良い気分になったから、今日はこれで帰ってもいいかも(笑)。

二見：本当にありがたいんですよ!係内だけで仕事が完結する業務も多いので、係内での情報共有や綿密な打合せをすることが必要不可欠なんです。向さんは、どんなに忙しい時でも親身に相談に乗ってく下さったり、私の考えを踏まえ上で、様々なアドバイスもくださるので円滑に仕事が進んでいるのは向さんのおかげです。

Q 先輩から見た後輩の印象は？

また、後輩へのアドバイスをお願いします。

向：仕事ってしんどいこととか辛いこともあるので、「明るく仕事ができる」ってすごく良いことなんですよ。その点、二見さんは、いつも笑って仕事をしているから、忙しいときや面倒な仕事を抱えているときは、それに周りの人は救われているところがあると思う。その姿勢はこれからもずっと大切にしてほしいです。もちろん、辛いことがあればすぐに相談してください!あと、二見さんが今年1年間事業を担当して分かったことや、自治体の担当者の方からの問合せに対応する中で気付いたことが色々あると思います。これから来年に向けて、二見さんがこれまで培ってきたものを存分に活かして、予算を取りに行ったり、制度改善を図ったり、何か新しいものを一緒に形にして創っていったらなと思っています。二見さんにはまた仕事を頼むことになるかもしれませんが(笑)。

二見：そこまで考えて下さってると思いませんでした。良い勉強になる係に配属されたと思っているので、いろいろ教えてください!

先輩

平成25年入省(物理)

研究開発局研究開発戦略官(核融合・原子力国際協力担当)付専門職

津久井 敦也

Tsukui Atsuya

後輩

平成28年入省(行政)

研究開発局研究開発戦略官(核融合・原子力国際協力担当)付係員

石原 佑香里

Ishihara Yukari

Q 現在の職場について教えてください。

津久井：核融合反応は、人類がまだ安定的に制御できない、とても難しい現象です。それを実現するために、ITER計画という、数十年かかる国際プロジェクトを推進しています。とてもチャレンジングな仕事ですが、風通しはとても良く、雑談も含めたフランクな普段のコミュニケーションのおかげで、困難なプロジェクトだけど、将来のためにしっかり進めていこう!という前向きな雰囲気があると思います。

石原：私たちの部署では、企業や、地方自治体から来ている方、研究者の方など、様々な経歴をもつメンバーが、日々業務に取り組んでいます。知識・考え方が多種多様という点でも、面白い部署だと思います。それぞれが強みを生かしながら仕事をしているイメージです。

Q 先輩から学んだことは？

石原：一人だと解決できないこともあります。上司や周りの人と話し合うことで、解決の糸口がみえることが多いです。チーム連携の大切さ、同僚や上司との協力・相談の大切さを教えてもらっています。

Q 後輩へのアドバイスをお願いします。

津久井：雑談も含めて、遠慮をせずに何でも話して欲しいと思います。特に、入省したての頃は自分で仕事量を管理できないことも多々あると思います。自分がこんなことをやっているとか、こういうことをやりたいということをアピールしてくれたほうが、上司としてもこれは部下にやらせないで自分でやろうとか、逆に経験を積ませるために自分の仕事も任せてみようとか、そういう判断ができます。こうした仕事の分担の調整等、上司だから出来ることがありますので、「上司をうまく使う」ということを覚えて欲しいですね。最終決定は上司ですが、部下あつての上司です。実際に作業をした担当者としての思いを上司にぶつけて、上司も部下も納得できるものを作り上げていくのが国家公務員の仕事だと思います。

Q これからどんな職員になりたいですか？

津久井：1人1人の自主性が最大限に発揮できるようなリーダーシップをとれるようになります。そのために、部下から相談してもらいやすいような包容力のある上司になりたいと考えています。一方で、国として信頼されるように、抜け目なく仕事をしていき、責任ある立場になったら、それに相応な責任感を持って、矢面に立っていきたいという思いもあります。

石原：周りの人から、育てたいと思ってもらえる部下になりたいです。そのために、責任感を持って、自分の考えを伝えられるよう意識して仕事をしていきたいです。仕事の量が多くとも、津久井さんがおっしゃるとおり、自分がこういう理由でこの案を提案したという意見を言えることが大切だと思います。さらに、将来的には、部下が相談しやすい上司になりたいなと思っています。

Q これから入省してくる職員に期待することは？

津久井：私は文部科学省に入って、政治に関わるような高いポジションを目指すのも、専門性を磨くのも良いと思っています。文部科学省で政策を進めるためには、若いうちから国会議員、関係府省、大学や企業等の教授・研究者等の様々な関係者と意見を交わしていく必要があり、学ぶことがとてもたくさんあります。それぞれの機会を生かしながら、自問自答を繰り返し、自分の目指す方向性にむかって研鑽を積むようにしてほしいと思います。人生100年時代における社会人1年目を、ぜひ文部科学省でスタートして欲しいです。

石原：色々なことに興味を持てる人に入ってきてもらいたいと思います。どの仕事にも言えることだと思いますが、自分のやりたいことが一年目からできるとは限りません。そのときに、チームを意識しながら、周囲の人たちと協力して、やっていける人は文部科学省の仕事を楽めるのではないのでしょうか。



キャリアアップイメージ

※これは、本省一般職採用職員のキャリアパスの一例であり、本人の勤務成績や希望等により異なります。

幅広く様々な分野を経験しながら
広い視野を養う

係員級

32歳

係長級

39歳

課長補佐級

幹部職員

※幹部候補育成課程を経るなどして幹部職員へ登用される。

係の施策をとりまとめるとともに、
部下への指導を行う。

課の施策のとりまとめを行い、
課長を支える。



大臣官房文教施設企画・防災部施設助成課
振興地域係長

飯名 由梨
Iinaka Yuri

係長級

■ 係員時代に担当していた業務で印象に残っている業務内容を教えてください。

私は、これまでの配属部署、担当業務、そしてそこで出会った上司や同僚に本当に恵まれてきたと思っています。そのうち、入省から3年間配属された部署は、局のとりまとめを行う課の予算担当でした。概算要求から予算編成、予算執行、決算に至るまでの膨大な業務をこなしながら局内調整に尽力する中で、早くたくさんの仕事を正確にこなせるようになりたいと、常にアンテナを張り、周りの上司や先輩方の背中を見て仕事ぶりを“盗む”つもりで日々頑張っていました。私の不勉強によりご指摘をいただくことも多々ありましたが、業務の性質上、局内のみならず省内の多くの方と一緒に仕事をさせていただいたことで、その後の仕事のネットワークも広がりました。その後配属された高校生の授業料支援を行う部署では、制度開始間もない頃であったため、制度をより良くするために数少ない同僚とともに悩みながら業務にあたる日々でしたが、係員として細かい審査業務をしているからこそ見えてくること等を積極的に上司に相談し、議論につなげていけるよう努めていました。

■ 現在、係長級として担当している業務内容を教えてください。児童生徒が安心できる教育環境を整備するための公立学校施設整備に関して、予算調整や執行事務、連絡調整業務等を担当しています。また、「みんなの廃校活用プロジェクト」として廃校施設等の有効活用を推進しています。

■ これまでのキャリアパスを振り返ってみて感じることは何ですか。

「教育」と聞いたときに、何を思い浮かべますか。それを複数人で話し合ったら、皆それぞれ異なることを口にするのではないのでしょうか。文部科学省の魅力は、「人」です。省庁の中で未来を担う子供達の教育等に関する仕事を選んだ職員は勿論、職場には、地方自治体や大学から派遣されている方や、長年学校現場で教壇に立たれていた方、民間企業の方等、様々な立場の方が一緒に机を並べています。その仲間たちと、自分が担当する業務を常に多面的・多角的に見て、議論が出来ます。私はこれまで出会った多くの上司や同僚とバックグラウンドを共有し議論することで、業務についてもそれ以外の人間的な部分についても、本当に多くを学んできました。文部科学省では、多種多様な分野を経験できます。これからも、様々なテーマで様々な仲間たちと議論しながら、よりよい施策の立案・推進に努めていけたらと思います。

PROFILE

平成21年	入省 (行政)
平成21年 4月	文部科学省生涯学習政策局政策課
平成24年 4月	同 初等中等教育局財務課高校修学支援室
平成25年 4月	同 初等中等教育局児童生徒課
平成27年 4月	国立大学法人小樽商科大学教務課学部教務係
平成28年 4月	同 企画戦略課教育・組織戦略係
平成29年 4月	文部科学省大臣官房文教施設企画部施設助成課振興地域係主任
平成30年 4月	同 大臣官房文教施設企画部施設助成課振興地域係長
平成30年 10月	同 大臣官房文教施設企画・防災部施設助成課振興地域係長 (現職)

■ 係長時代に担当していた業務で印象に残っている業務内容を教えてください。

係長時代には、OECD/NEA (原子力機関) や在シンガポール日本国大使館での勤務、国際原子力機関 (IAEA) 関連の業務 (国内の保障措置業務や放射性廃棄物の国際安全基準策定) など、多くの国際業務に従事しました。特に大使館ではこれまでの担当業務から大きく広がり、教育・科学技術・文化・スポーツ分野を担当し、日シンガポール間の協力促進に携わりました。思い出深いのは、2016年の日シンガポール外交関係樹立50周年 (SJ50) での日本文化発信です。ポップカルチャーから伝統文化・科学技術まで様々なイベントをシンガポール内で開催するとともに、そのハイライトとしての「SJ50まつり」の企画・運営 (2日間で11万人動員) にも積極的に参画しました。総じて係長時代は、実務経験を高めるべく、積極的に課題に挑戦し、自らの視野を広げることを心がけていました。

■ 現在、課長補佐級として担当している業務内容を教えてください。

科学技術・学術政策局の科学技術・学術戦略官 (国際担当) 付に所属しています。当付では先進国から途上国まで二国間・多国間の戦略的な国際科学技術協力の促進を担っており、私は、先進国担当の戦略1系の全体取りまとめと、中国、韓国との科学技術協力を主に担当しています。グローバル化の中、国際競争力強化のため、科学技術は我が国含む各国の重要な原動力となっています。これまでの国際経験を踏まえ、世界の科学技術協力全体を俯瞰した見方や助言をすべく、日頃より世界の科学技術の動向等の把握を心がけています。

■ これまでのキャリアパスを振り返ってみて感じることは何ですか。

これまでのキャリアパスを振り返ると、入省以来、科学技術の分野は違っても多くの国際業務に関わってきました。海外留学後には日本大使館勤務に就くとともに、帰国後には文部科学省内の国際部署に配属されるなど、国際的な経験を活かし、自分自身が成長できる環境を常に与えてもらったと感じています。実務に専念できる係長級から担当班の仕事全体の俯瞰・取りまとめも行う補佐級と役割の違いはありますが、文科省では個々の興味関心を踏まえたキャリア構築ができる魅力があると思います。グローバル社会の中、科学技術の国際協力の重要性は更に高まっています。文部科学省の国内施策も熟知しつつ、戦略的な国際協力を効果的に担える職員を今後も目指していきたいと思っています。



科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官
(国際担当) 付専門官

川端 正憲
Kawabata Masanori

課長補佐級

PROFILE

平成17年	入省 (化学)
平成17年 4月	文部科学省科学技術・学術政策局国際交流官付
平成19年 4月	内閣府主査付 (政策統括官 (科学技術政策担当) 付参事官 (原子力担当) 付) (併) 原子力政策担当室原子力安全・保安院放射性廃棄物規制課調整班調整係長
平成21年 4月	文部科学省研究開発局開発企画課核不拡散・保障措置室査察官
平成23年 4月	同 研究開発局研究開発戦略官 (核不拡散・核セキュリティ担当) 付査察官
平成23年 6月	同 研究開発局原子力課専門職 (原子力関係在外研究員としてOECD/NEAに派遣)
平成24年 3月	経済産業省資源エネルギー庁電力・ガス事業部原子力立地・核燃料サイクル産業課核燃料サイクル産業立地対策室核燃料サイクル専門職
平成25年 4月	外務省在シンガポール日本国大使館二等書記官
平成26年 10月	文部科学省科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官 (国際担当) 付専門職
平成29年 10月	同 科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官 (国際担当) 付専門官 (現職)
平成30年 4月	同 科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官 (国際担当) 付専門官 (現職)